



施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602

7月の休館日：6月・13月
・21(火)・27(月)

7月12日(日) 13:00～/16:00～ <2回公演>

指定 ミッフィー子どもミュージカル
「ミッフィーのおたんじょうび」

7月20日(月祝) 14:00～

指定 ブロードウェイミュージカル
「フログとトード がま君とかえる君の春夏秋冬」

7月24日(金) 19:00～

自由 東京銘曲堂サマーライブ

7月26日(日) 15:00～

自由 金亀亭落語塾 第2回 **全3回**
講師 笑福亭伯枝さん
【第3回 8月23日(日) 15:00～】

7月29日(水) 18:30～

指定 キエフ・クラシック・バレエ「白雪姫」

8月8日(土)、9日(日) 15:00～

ひこねフィジカル・アート2009
「一時と場の交路で“幻想の身体”に出会う」
自由 一般、大学生、高校生500円 中学生以下無料

8月8日(土)、9日(日) 18:00～

劇団アンゲルス公演「銀河鉄道の夜」
一般3,000円、大学・高校生1,500円、小・中学生1,000円
ひこねフィジカル・アート2009入場券をお持ちの人は
一般、大学・高校生 各500円引

8月9日(日) 13:00～

詩のボクシング 滋賀大会本選
自由 一般1,500円、高校生500円、中学生以下無料

9月18日(金) 19:00～

金亀亭第2回落語ライブ 柳家花緑独演会
「花緑ごのみ」
自由 3,500円 【7月3日(金)発売開始】

ひこね市民大学講座 **自由** **全5回**

- 第1講** 7月4日(土) 14:00～
朝原宣治さん(北京オリンピック銅メダリスト)
- 第2講** 7月18日(土) 14:00～
神田鯉風さん、神田陽司さん(講師)
- 第3講** 9月5日(土) 14:00～
童門冬二さん(作家)
- 第4講** 9月27日(日) 14:00～
枝廣淳子さん(環境ジャーナリスト)
- 第5講** 10月10日(土) 14:00～
金子勝さん(慶應義塾大学経済学部教授)

託児サービス・臨時バスの運行については、公演ごとに異なります。詳しいことは、お問い合わせください

チケットのお申し込み、お問い合わせは
チケットセンター ☎27-5200 (9:00～19:00)

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520

7月の休館日はありません。
※22日(水)～同24日(金)は展示替えのため、展示室を一部閉室しています。

開館時間 8:30～17:00 (入館は16:30まで)

7月25日(土)～9月1日(火)

直弼発見! 巻の3

「井伊直弼の書と古典研究」

若き日に熱心に書写した古典や、自詠の和歌の書など、国学に傾倒した直弼像を浮き彫りにします。



「柳道四附」井伊直弼筆

ギャラリートーク

「井伊直弼の書と古典研究」

7月25日(土) 14:00～15:00

解説：本館学芸員 高木文恵
※事前申し込みは不要です。当日、館内講堂にお集まりください。

観覧料が必要です

直弼のころ

幕末の大老、井伊直弼(1815～1860)は、国政を担う政治家として

知られる一方、茶の湯や国学、禅、居合などにひたむきに取り組む、文化人としての面をあわせ持っていました。

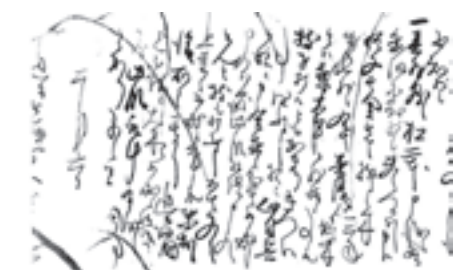
このコーナーでは、直弼ゆかりのさまざまな作品を集め、その人となりを紹介します。

7月23日(木)～8月31日(月)

重要文化財

井伊直弼書状 安東七郎右衛門宛て

世継として江戸にいた井伊直弼が、彦根の埋木舎の柳を大切に手入れするように依頼した手紙。



常設展の名品

井伊直弼の開国論を支えた側近

とき玉手箱

博物館からのメッセージ



第155回

政治家や組織のリーダーのまわりには、その政務を補佐する側近がいます。さまざまな情報を収集・分析したり、方針案を提示して、リーダーの決断を助けるのが役目です。

彦根藩主として、また幕府大老として政務を執った井伊直弼にもこのような立場の人物がいました。アメリカとの通商条約締結をどうするべきか、直弼が自身の考えをまとめる際にも、彼らの活躍がありました。

▲宇津木景福が起草した井伊直弼上書案(冒頭部分)

嘉永7年(1854)の日米和親条約締結後、ハリスが来日し、通商条約を結ぶ交渉が始まります。安政4年(1857)11月ごろからハリスと幕府の外交官とで条約内容を詰める一方、老中たちは諸大名らの合意が得られるよう調整を進めていきました。ただ、反対意見を述べる大名も多かったため、老中堀田正睦は、天皇から勅許を得て開国へ意見一致させようと考へ、みづから上洛しました。しかし反対派が自説を孝明天皇に説いたことから、安政5年3月、天皇は現段階では条約調印を認められない旨を回答

します。堀田は、天皇周辺の政治的動向を見誤ったのでした。

このころ、井伊直弼は、幕府の役職には就いていませんが、井伊家代々の役割として幕政へ意見を述べる立場にありました。江戸時代を通じて、井伊家は徳川将軍家の重臣グループ「溜詰」の中心的な家柄として、幕政顧問的な役割を担っていたためです。

そのため、幕府が堀田の失策に対処する策を考える必要が出たとき、井伊直弼に腹案を幕府に提示すべきと進言した家臣がいました。それが直弼の側近を勤めていた宇津木景福です。

このとき宇津木によって執筆された直弼意見書の草案が残っています(写真)。この案では、条約調印に対する基本的な方針では、条約調印を拒んでアメリカと戦争をしても勝ち目はないので、まずは交易をして、その間に軍備を充実させるべきと述べます。また、勅許を得られなかったことを受けて、今後の交渉方針を論じます。この意見は現実を見ずえた論であるうえ、明解で説得力があります。

宇津木は、ペリー来航時に相模国三浦半島(神奈川県)で警衛に就いていた彦根藩士の1人で、特に幕府役人と交渉する城使役として実務を取り仕切った経歴の持ち主です。このような経験が、今回の意見作成にも活かされたといえます。

井伊直弼は、宇津木の草案に目を通し、ほかの数人の家臣たちにも意見を求めた上で、この意見書を幕府に提出することにしました。その後、將軍家定より大老就任を命じられたため、結局、意見書は提出していませんが、この意見は大老の基本的な考えとなつたのです。

側近の活躍は評価されにくいものですが、政治家の業績に大きな影響を与えます。言い換えれば、名君には家臣の才能を見極める能力が不可欠なのかもしれません。

(彦根城博物館学芸員 野田浩子)

写真の史料は、シリーズ「直弼発見!」巻の7「井伊直弼を支えた人々」(6月26日(金)～7月22日(水)・会期中無休)で展示します。